

令和4年度

印西市民アカデミーだより

第10号

講座10：歴史散策③ 結縁寺地区

9月28日(水)、今回の歴史散策は、印西市の南側、印旛沼の北岸に広がる旧船穂村の結縁寺地区を散策しました。コースは、船穂コミュニティーセンター→船穂宗像神社→白山神社→名馬塚→頼政塚→結縁寺→熊野神社・入定塚→船穂コミュニティーセンター(約4km)。

初めは、**船穂宗像神社**。印西・白井近郷には、印旛沼の北岸に13の宗像神社があります。市杵島姫命、湍津姫命、田心姫命の三女伸を祭神とする宗像神社は、航海治水の神として知られています。この船穂宗像神社には、鳥居が建てられていません。鳥居を立てると洪水になるという言い伝えによるもので、たまたま鳥居を建てた年に洪水に見舞われたことがあったためといわれています。次に向かったのは、**白山神社**。地元では、「いぼ神様」とも呼ばれています。体にできたイボを社殿に奉納されている縄でこすると治る、との伝承からこの名がついたと思われます。社殿には精緻な彫刻が施されています。続いては、**名馬塚**。宇治平等院で自害した源頼政の首を運んできた馬を弔ったのが名馬塚です。10数基の馬頭観音塔が祀られています。さらに進んで、**頼政塚**。源頼政は平安時代末期の源氏の長老で、平氏の専横に業を煮やして、後白河法皇の皇子以仁王の平氏打倒の令旨を諸国の源氏一族に飛ばした人物です。しかし、戦いに敗れ宇治平等院で自害します。この頼政の首を家臣が頼政の愛馬に乗り坂東へ落ちのびました。背負った首が急に重くなり、馬も立ち止まって動かなくなったところに首を埋めたのが頼政塚です。塚の前には糸が供えられており、農作業で手首が痛くなった時に手首にまくと痛みが消えるといわれています。いよいよ**結縁寺**。晴天山西光院結縁寺は神亀(724~29)、この地を訪れた行基が「天晴れるとき井戸の中に白蓮が現れた」のを見て、仏法がこの東の地に到達した霊地であるとして一字を建立し「晴天山」と号したのが始まりと伝承されています。天慶年間(938~946)になると真言



船穂宗像神社(拝殿)



頼政塚



結縁寺(本堂)



宗の僧が入り、春秋2度の結縁灌頂を行ったことから「晴天山結縁寺」と称するようになりました。この本堂に安置されているのが、大正3年に国の重要文化財に指定された**銅造不動明王立像**(左写真)で、鎌倉時代後期に造像されました。国指定の文化財の不動明王の中で、銅造はこの像を含め3像しかなく大変貴重なものです。毎年、9月28日に開帳されています。今回、ご住職のご配慮により本堂でこの像を目の前で拝観することができました。最後は、**熊野神社・入定塚**です。結縁寺の鎮守である熊野神社の鳥居をくぐると、石段の手前右手にある小さな石塔が入定塚です。熊野神社は、結縁寺が別当を務めた時代もありましたが、創建年代などの由緒は不明です。当日は、爽やかな晴天で心地よい風も吹き、「**にほんの里山百選**」に選定された結縁寺周辺の豊かな自然を満喫することができました。